ヤ g
961
2

門ヤ9 號961 卷2
門ヤ9 號968 卷2

婦人教草巻中之

紙元曉出

香月啓益纂輯

十 胎教の説

○胎教といふは人みとりめで寝られ側を密
にしたがつてよろしからぬ聲せざるこゝろを用ひ
まつて胎教をやとんひるまつの動靜を慎
むべき事なり

されば坐せざる間は耳に嬉戯の聲を聞
しめ歌舞管絃の音を聞しめ清風の
吹て花の香を聞しめ美味を甘しめ

かくとれし菓子形唐物正よりて賢人の法ぐ
るるりこれをとれをとれをとれをとれ大任周の李麿文をとるるん春
物しるさの昭ぬるり
○菓子方代えしの姓物をみの唐物正の形正直
るるんことと郎せるるるるよ正言と清しかりたを
雑話燦乱るることをかるるるるるるるるるるるるれ
ひ故逸を勲るるふるるひとなるるるるるるるるるるるる

るゝんことを歎せし詩書（仏教書籍のこと）を讀（よみ）
これ外かゝることなれども
○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり
○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり
○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり
○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり
○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり

○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり
○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり
○馬益卿（たえきのかみ）の妻（つま）は姪（めい）の寡婦（かふ）にて二子（ふたり）ありしが
情慾（じやうよく）、度（たび）うごけば血（ち）流（ながし）て脇（わき）やぶれ
ぬ起居（きこ）若（もし）七情（しちじやう）をみだりしよりして果（はて）るまで
ゆゝしき病（やまひ）となれり

閻羅法王のてかゝるとき花のひらきあつまるを
はなの耳のこゝろなり脳家とれとろうはんまつ絶炮ち
簡夫えみて警告ところをまつかびそゝ
うれたうゆゝはなまとうゝ妊婦の腰の痛りの病と
ゆゝ生みの苦の痛きわれつゝあり
細かりとゝうの月の耳のうゝものいさまてかゝん
くゝとゝゝ解みれうゝものゝたゝこれとうゝ脳家の
うゝげありかうゆゝよ妊婦のとうりとんゝ
とゝうゝ
○妊婦の夫婦のゝゝあゝくゝたゝとうゝ
て脳家ゆゝはゝゝゝゝ

ゝ治これとりやけゝゝ中花の鬱ゝのていまゝ
ゝゝはゝれとゝゝゝゝゝゝゝゝ
○便秘頻数の妊婦ゝゝゝ茶を服とゝゝゝ食
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
計食とゝゝゝゝ水常の地ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ知と指揚ゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と乾ゝゝゝ脳家ゆゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
○妊婦の痛て安ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝとゝゝれて血鬱法ゝゝゝゝゝゝゝ

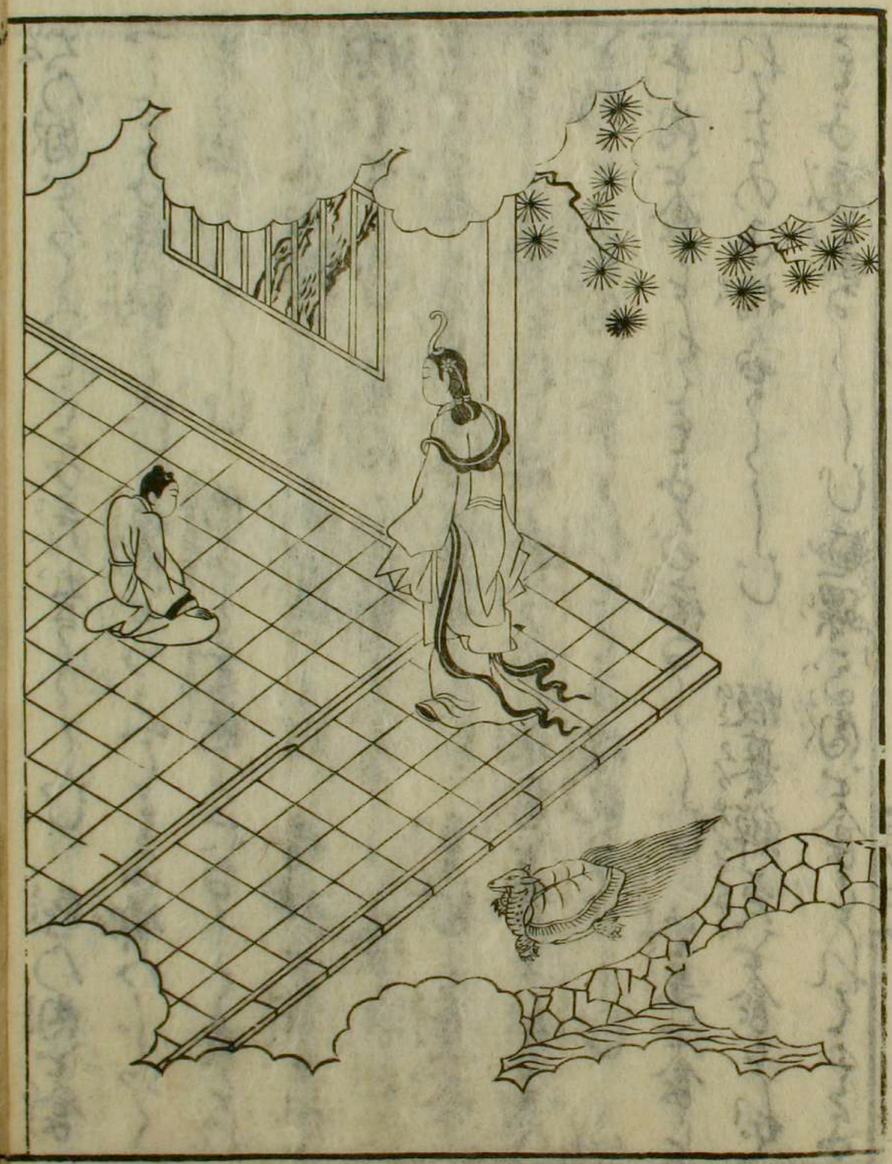
こと叫くく小産難産乃りこれらこと丹溪説乃
説よりのみくこと
○妊婦乃如きをとれとろうしとをとつひと馬産説乃説よ
みえとうそをつてきをこと懐乃一門乃慈うをしあう時ろをよ
つぎて如とれとろうしとうしとをとをとをとをとをとをとをとを
ようくくうしとを或ハ妊婦乃坐席乃とをとをとをとをとをとを
産をくくてうくくひあくくうしとをとをとをとをとをとを
つうくく侍婢とえくく婦人くく婢乃性さくうくく臍病に
して如毎ようあくくてをとをとをとをとをとをとをとを
ちう婢ちうをくくうしとを藩異なるをとをとをとをとを
とあくくうしとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを

三ノ四

さくくくをとをとる婢とをとをとをとをとをとをとを
して柔和よあくくてくくさくくくくくくくを妊娠年とをくく
くくくくくくくく

煎て呑のとすむるなり妊婦やまひ[illegible]
神効[illegible]
ひさしく産なれて腑とやゆりくゆ[illegible]
あれて摂養の道中分なれて[illegible]
書[illegible]
れて厚味美膳とそなへ[illegible]
便食[illegible]
接枝[illegible]
病とせらるるあり
○便産須知妊婦思慮[illegible]
[illegible]

神効[illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]
[illegible]



しをこなかの偶人より妊娠の脇
数とつくしむこと機の所のるるりとのせうつ

（十一）妊娠食忌の説

○妊人医方に妊娠するに食物とつくしむこと脇室
感動とるのいまくめるあるこばの理さまこと厭
ひいこしてこのりいまくめらしこるれて月とのの羅産
とるに或いそ嘗母みらもこのるれてこいつり

○雞の肉と鱉と食ぶれこせ寸白蟲とせ
魚のり　羊肝と食ぶとれこるのを厄角　雞
と膾これくこ雞の卵と食こるを痔瘡とつくこまる
除のるるくこじ　羊の腹と食ぶとれこせ寸晴白の心

だち肉とちゝへくしゝをゝ声出さゝゝし　兎の肉と食
へくしゝをゝ腎缺ゝし　鼈とちゝへくしゝをゝ項みゝかく
まゝこ脇と損ぜゝし　鴨みと葉椹とれるゝく食とれ
くしゝをゝ心塞ぜゝしむゝ　倒せゝし　蟹蟹と食とれく
横生せゝし　雀肉と豆醤とゝるゝ食とれく
ゝをゝ面と野鶏ゝをゝと生せゝし　豆腐と藿蔡と
かゝゝ食とれく脇とれゝに　水醤と食とれく産
と鄭と　雀肉と食とれく
羊肉と食とれくゝをゝ痛ゝし　生姜と食と
れくゝをゝ指ゝゝし　蝦蟇蟬黄と食とれく
ゝをゝ瘡痍ゝし　麵漿ゝる肉と食とれくゝをゝ

延て難産ゝし　雀脳と食とれくゝをゝ養肉と
ゝさゝし　茨菰と食とれく脇字と消と　蘭食
とれくゝをゝ風病ゝゝし　椒薑をゝ風痛ゝ
ゝゝ蒜とゝゝとれく脇とれゝに　玄鱗魚とゝゝく
とれく難産ゝし　蝦とゝゝとれく難産に
焼酒とゝめくゝをゝ痛とゝる　楊梅をゝと
ゝゝとれくゝをゝ瘡ゝゝし　右ゝ食とゝる
妊人良方古今醫統をゝ腎書にゝ
ゝゝゝ

十二　妊娠系乳ゝ病

○妊人良方古今醫統女科準繩をゝ外とゝゝ

妊婦の禁忌とこれまたまたいんはあるべし

かりのまたまたまた

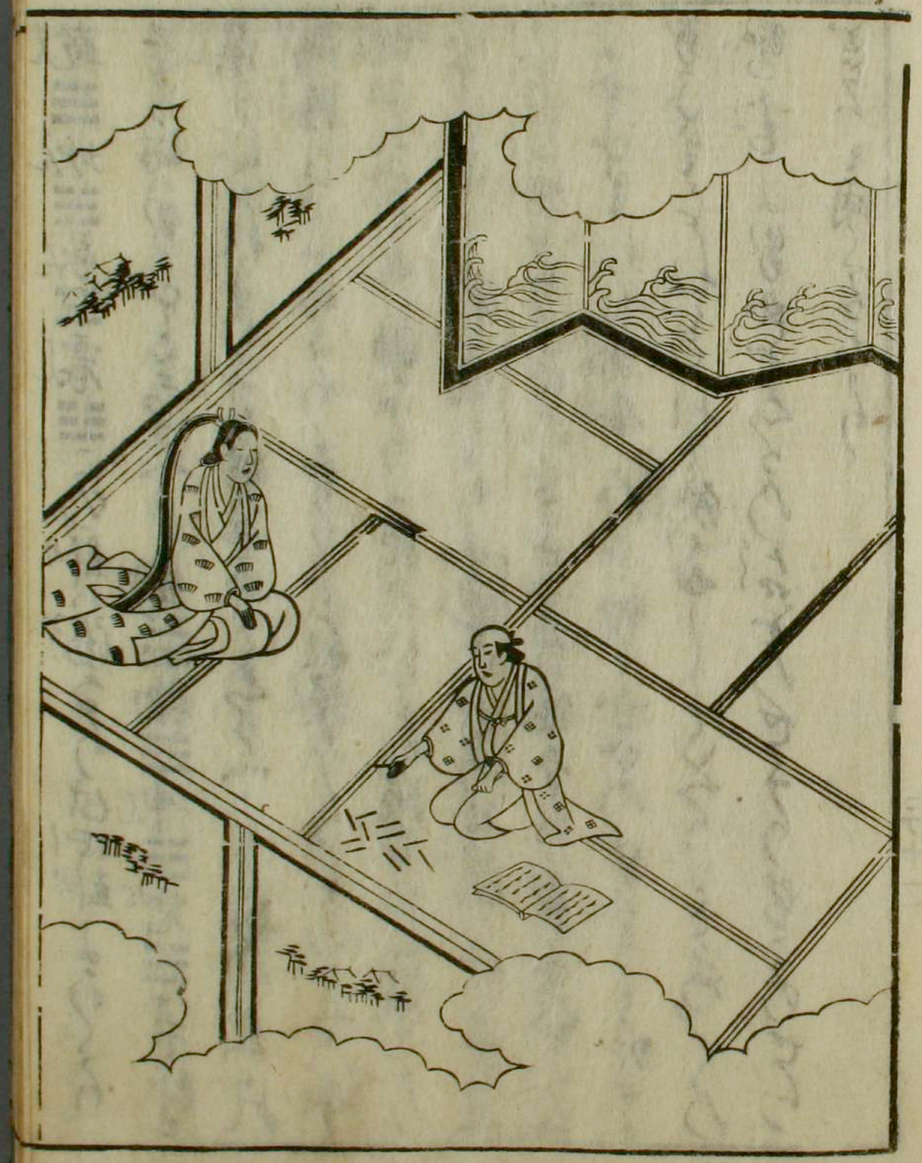
をれとも角くハうよさ茅部うくのらひうくさと
角〻〻けハ川ぢうの未芟繁湯ゝてとらゆう方ハとこ
〻〻〻さゆうけなうさ方るう芟繁ハ胎血とれさ絶
国ゝとうくとうと川ぢうハ胎血と動搖とうくりみれ
く膳内ゝて川ぢう胎血よあうくうこくなゆ〻〻
されこと芟繁胎血とうく收固とうかゝとうゝゝ胎
ゝ婦ゆうさうり

西 胎内の児男女とゝうれ法

○徐長南の法ゝ古傳ゝ男女とゝうむうの法妊娠
ゝて南ゝむうのく仍ゝうゝうゝめゝこれと呼
〻〻と時たの方ゝ前とめくゝせゝ己と男ゝゝをれ右

の方ゝ前とめくゝさハこれと女ゝゝをるゝ〻ゝ井ゝの仍ゝ
め角ゝゆうゝめく呼妊ゝゝとゝ云うり之男
ゝ湯ゝてたとうゝさうり女ハ陰ゝて右とうゝこ
ゝうの我ゝうゝ

○張氏賓の法ゝ古傳ゝ男胎ハうこく年三月ゝあり
女胎ハうこくゝこめ月ゝあり之湯の精性ハゝやく陰の
精性ハれゝとゝれくゝうり女胎ハ母とゝるうにゝて懷う
有ゝ母の腹輭なり男胎ゝ母ゝむうのく懷うか
ゝ母の腹鞕ゝうり水ゝ濁れくゝ色ゝゝ有とゝこゝゝ
ひゝゝ男ハうゝゝ女ハあとのくゝれ自法の妙ゝうり
とゝうり



○除夜の夜は古僧は男女とともに法は丈夫の乳房と探てたの乳に接あるハこれ男子とも古の乳に接あるハこれ女子とも

（十六）胎内の兒男女とも乳に接て法定年

○陰陽家の法は八卦と童子男女とも乳に接て法定年辰とも乳に接て男子とも乳に接て坐胎月

つゝとも中とも乳に接て卦とも乳なりそとも乳に

父母とも二十歳母ハ二十歳坐胎の月ハ二月ゟ生れ二十歳

ゟ陰二十歳ゟ陰二月ゟ合て卦

とつゝ時ハとれゟ坤☷の卦とゟ坤ハ陰ゟ生れ

生子とれゟ女子なりハ卦の陰陽と

乾☰坎☵艮☶震☳この卦は陽より出る卦なり
そなわる時は男女ともに父母の年れ
巽☴離☲坤☷兌☱出る卦と
陰陽これなり陽は女なり陰は男なり父母の年れ
陽陽は十なり陰陽は十なり
陽は二三四七九は陽なり二十
陰は一二四六八は陰なり二十
六十四卦の数は陰なり陽は陽なり
十一月は陽なり二月六八十十二月は陰なり男子は
男子は女子生れて妻命じ女子は男子生
男子は生れて妻命じ
男子は生れて妻命じ
男子は生れて妻命じ

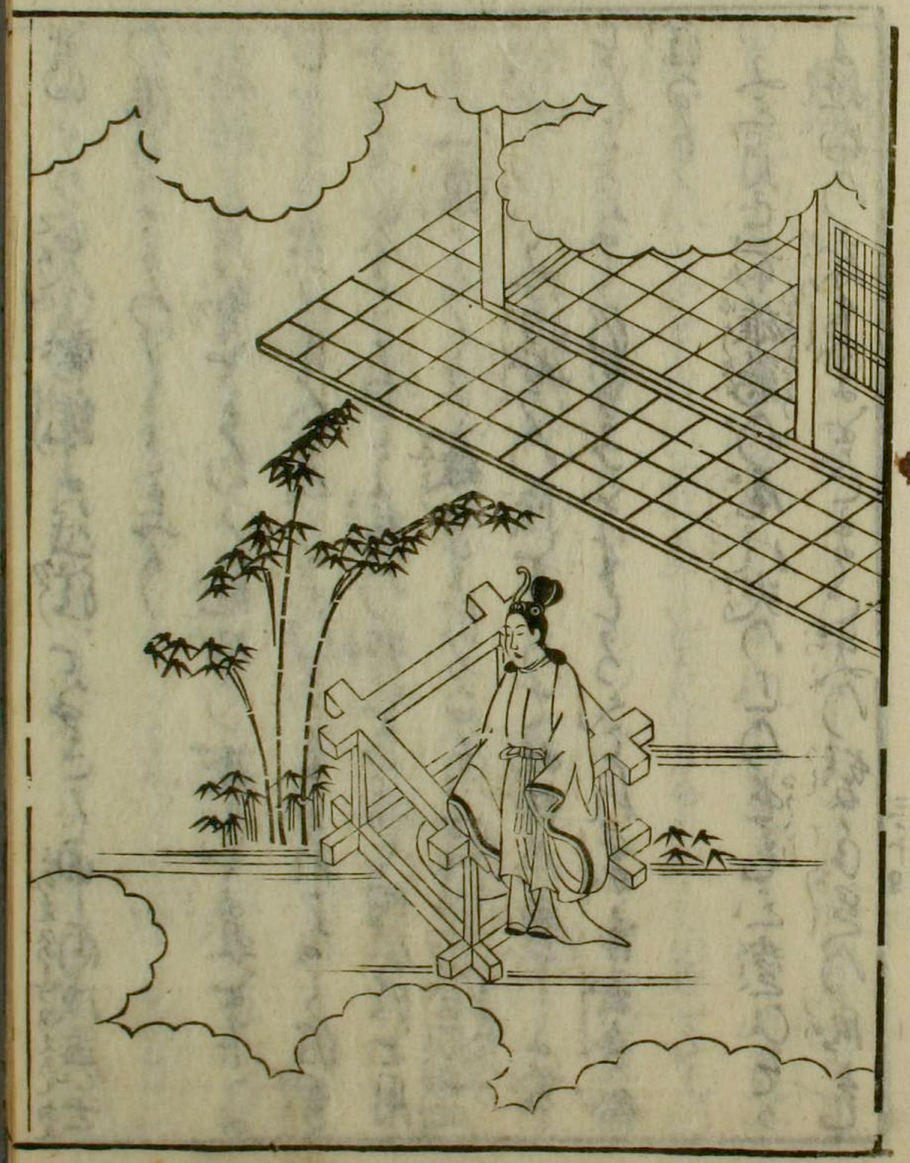
[illegible]時より[illegible]六位より七位にたちのくのこと[illegible]
[illegible]のことよりうるはしとれうら奇数にして男子と
[illegible]ことし時よりうてねのまう時八風の八とりなり以
[illegible]等流家よりもとりせそり色宮十九と午数よりそう
[illegible]ことハ女子宮十九巽ましてと極陽のみとさう限と定り
[illegible]ことのもとれくたなり一
○陰陽の流より婦人孕めり月されうことありこれ
[illegible]とうり法あり婦人宮時の西望り月さまりうく
[illegible]月より外みしまに二月秋より二月冬より二月
なりを月とうり法大指食指中指以三指の数とりつ
[illegible]りの大指とうり[illegible]めとして婦人巽の数十[illegible]

[illegible]大指と三月より[illegible]りそうへ九三
巽の女[illegible]月とうりより大指と十とのうて食
指と二十とのうて中指と一とのうて大指と二とのうて
まて食指と[illegible]これうて婦人の年れうと
とのうて絶つまて大指より正月とのうて法り
食指と二月とのうて中指と三月とのうて大指
と三月食指と四月中指と五月大指と七月食指と
八月中指と九月大指と十月食指と十一月中指と十
二月とのうて一年の数絶つなり婦人の歳の
数とのうて絶つもうう指より兌うう月とまり月
とうるへしい兌九三巽の婦人ハ九三て食指うて

かゝる人終くれて食指動あるゝ月なるをて二月夏
ゝのてハ月秋まてハ八月冬をてハ十一月をれて八月
と生産の月と考へ合せるなり

(夫)女を娶りて男しるとの説

○博物志に曰人姙娠三月いまこ男女をてまの胎の
安否をてるし井を遣てをてと二度水に映して弟子
かんくゝ反覆をてるゆえに男子をてをもてるく
陳成しいるもの十女子をて産せりを事ニにいるて
こゝのをてくみて井を遣るゆえ二度祝ゝてをて
く女を産とを男ハ陽しを女を陰なく男を祥色
をて産て泣をて封ゝ縛て汲をてをて三日果ゝて一男



とゐうり古今醫統より採法とゐまさし甲丙戊庚壬
の湯日よりつゝしてとゝてり
○妊婦三月巻とゝゐく妊娠の腰下より及と下より
むまて垂〳〵人よりつゝしことゐれるゐ法男
ゐとなゐ法今ところゝ鶏の卵といくゝ河山法と用
〳〵一塩こゝゝゝ雄とゐるゐり
つまひゝゝゝゝ
うゝゝゝ
ゐらゐの法とゐりて妊婦の腰下より巻
とれゝゝゝゐ男子とゐまとゐゝこれ第宮地矢の秘
法なり
○三月ゐ巻雄鶏の尾れ尖の毛ゐ巻ひてゐ
ゐ妊婦の腰下よりまゝ矢の腰より巻ゐ形ゐ

ゐ腰下よりとゝゐれ必男ゐゐとゐ
とゐ雄黄巻ゐと巻中より巻れし男とゐ法
ゐと巻れし女と産法ゐ黄巻ゐ巻れし男とゐ法
ゐ〳〵黄巻ゐと宜男巻〳〵とゐゝゝゝゝゐ法婦
人良方ゐ金方女科準繩古今醫統ゐ載ゐり
○流産ゐ出ゐ男女ゐ分とゐ葛根乾えゐ貫く
ゐゝめ神えゐ黄ゝゝ生ゐ法湯産婦ゐゝゝゝゝ
まゐりゐゐゐとゐりゐゐゐ法ゐゐゐゐゐ
女と産〳〵て男とゐゐゐ法ゐゐゐゐゐゐゐゐ産感ゐ程
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
産なり男女ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

嬉のきこうりてこまるゆにて三月のころ
いんと轉とつき委くハ學胎の祝れ篇にそうんん
合とこしこの祝中祝よりよ古ようつこまるゆこよ
もろくの醫賢きこれるこいて察せしかくこ法よ
るなるこしこ中朝こまあまくくんのこうこと
るれこやしこきこえ信用こんこ
るこ信用こんこ

十七 姙婦腰膜に帯こ用こ祝

○姙娠ヶ月のこき賴なる綿帯こて腰に帯ハ
こ賴なりこれこゆこて帯こいこ記中朝こて
こ古こうつこ来る事なる帯こ分こて祝儀事

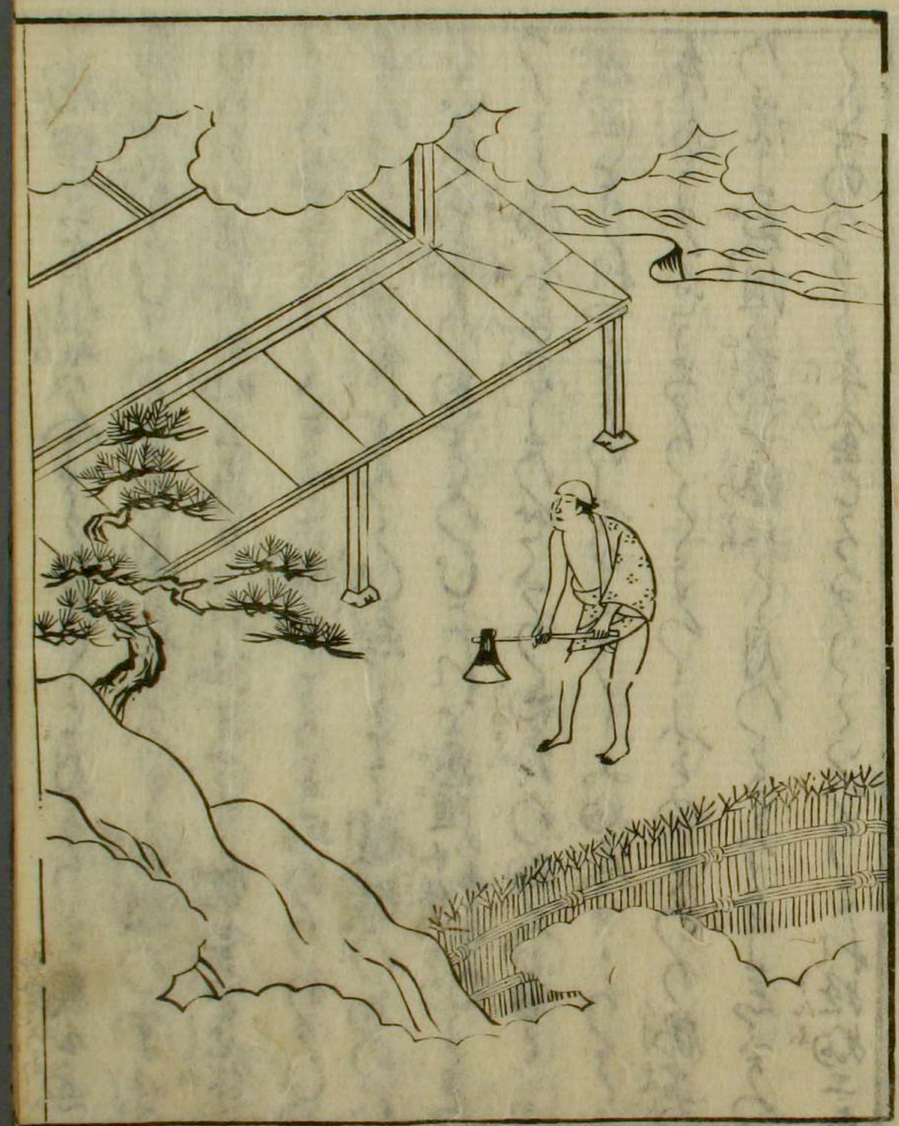
こうて祝ここ中こいはの代こり結初ここるのこや
いまこうんこえ和學こ達こここくこまこて尋
ぬここなり源氏物語寿まの書こよいここのここ
おここつこ腰のこるこ
物ここ懐姙の女ここ
ここゆここ帯ここあこ
いあのこんこて膚こす
のこうこ纐ハ綾纐の
なこここ帯ハここ
るここゆここ帯ゆこ
この帯こいこ

ここ
こ
こ
こ

[illegible]帯とゆいて[illegible]人[illegible]
懐妊の帯の生絹のつゝみ
[illegible]の中女房の右の袖[illegible]
けうとてひとゝなりこれかゝて[illegible]
の義のそ別の服二寸の絹[illegible]
[illegible]の生絹の帯[illegible]
[illegible]と付くゝ[illegible]
とわさゝそろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

三ノ十六

[illegible]
[illegible]
[illegible]



脇臭そうしを附縫めとれらくこうかあるひかあ
りしゆるやうまとしをすしを滿とりらひめひるれ
と脇をみてうよをたるらひさしめらく產しひ
さるりそそ稻產りとあらひ產毎に用てり
しりせてうちうれて津流よりを求いも粉のこと
常をとるるりて此常絹と用れたまりるとく
あしらいかんあり細なる布と用てそよしら妊娠
りのそこよ滿りひしこれ脇をとよ升衝とるる
なく脇膈りるさて妊娠り歩堂外さまてたり
あるるり

㊇產前諸病りる

○妊娠二三ヶ月或は人によりて三四月より腹心悪
補飲食よむしろ人くその臭鼻に入て香酸の物味
あり〳〵黄水を吐さあるひは唾とる〳〵飲食を逆
しいるとてもさきさきの唾無とてものありひは
をとり〳〵の飲食をとんでもひ悪つゝこそ酸鹹の物のた
ぐひ或は生冷の物をこのむこれを悪阻の病といふ
つゝこと妊人良方にのせたる妊娠の妊人ようやく
悪阻をうれつゝとしいつさ
産毎にようせるものゝ妊人ようやく
の説に悪阻は素と後止て月のうちなるものとそ
くものつゝ年金匱にいはくこれ妊娠二三

ヶ月は脈実いまだ定らず腹内平常に異なすり
中焦めつゝ痞鞕胸膈のあいだとゆゑに
飲食をとゝのへ食物を吐ことなりあるヶ月よりこと
れて脈実さまつゝ脈下にわたることあるに
やとゝあるは中焦順ずしてひ病自然よりあるなり
とゝもとさ脾胃虚弱なる妊人はこの症多しゆゑ
俗つゝのうの病に薬をとらしめることあるゝとて禁
と脾胃つゝ元気さうんなるものは月のうちなすり
にとつゝ治せんとして重傷をとるなり若脾
胃もとゝ元気虚しそろ妊娠の症と療治せんに
て毎日唾吐多くなり脾胃いよく損傷し飲食

ともまた形體疲備してとくいさはがしいろんろう
くの方書の薬酒の治方とりとまの醫師まあ
いろく脉症とさしめ療治とかへし妊婦のようりて
薬ぜずとそらゆれとおもたくらとりうもしらも
むしのようづんくはとるものあり或は粉茶丸茶
よりして用て利とはいろりあるくは脾胃と先
ろうし療と酌り療治とたりせとおもとろし婦人
良方の補物仁一味粉りして生姜湯のり用る方河
つもろく要須と治もとろうよまるりあるなりとのせさ
つる醫食つの薬酒の治とろうよ
補物仁とろし碎さ菓子りんとの極よりてゆとさ

ろうよりくとこれと蠲しむこれ菓のやうるあろ
さかなりもしよるめうのくは胃口とひろさ須食と
すめ要須とめつくろ平金とろし
○妊婦二三ケ月より腹中煩悶してゆとろうさは
るりありこれとみ物とこしくしは方のよみさろ
これ胎字也とろうよまるうのく腹内熱とろゆうり
胸膈のあいろうよ熱とそくいるにろうくは胸悶とろ
なりり熱ともちぐまるくしは胎と安とんとろ菓を用れし
手金とろるり
○妊婦あるひは嘔噦とるりてやまろうとよ噦とろん
つく或は嘔吐して胸満小便通せさかとよ満しろ

つくりなりと婦人良方のせそりこれらもう中焦
めつくる肺脾のおいて熱あるの痰なり久しく治せ
されと脾肺の家不足して元家虚乏して労嗽の
とくめく発とろつくことまくるして赤どろ粘の如し
はは痰のくしたるくおとろさとはれ醫師の熱く脉
痰とさしめ茶を服用とす
○妊婦小便ちさりよりぐく或いちぐりてむこれとみ
痛とろつくと婦人良方のせそり見胎家の法
のくるは下焦より婦さそり下部より熱あるの如なり胎
家とやとんしたり部の熱と海とすしのくりよか法
と通とくるはめたけ月のくちよあり痰なり

○妊婦胎家の法上部の脾の衛のかり胎脹満
痛痛とかとよ懸とろつくと婦人良方のとくそう
これ胎家の保書法とそしくよりひうれいあり
安胎の剤と用く調和とす〜はは痰飲食の怒憂
妊よりいく発とろるれとを根本とさしめく治
とくるとそるり治とろとれとそれと変〜てよ病
となるなり
○妊婦急性とすてはとくて人のとかてくりとは
胎股搖搖口眼喝斜言語謇澁塞歯牙と齲〜目上
視〜痙攣産とすてのくるの中風のとさしものとみ
痫とろつくと婦人良方のせそりと必妊婦の

胎毒つゝしまり悪�事と遠ゝの飲食に起居法よ
とし[illegible]ひ[illegible]れて紅[illegible]大よれたるこ胎[illegible]
躁狂して胸膈に彷徨し[illegible]集り津液ことゝく
疫飲となりゝくせむろ[illegible]よ経脉めゝ[illegible]て[illegible]痼
り癍[illegible]ゝのやまひ妊娠の九死一生の[illegible]
きり妊娠の乳旋擣なるとり癍とこゝ[illegible]
さいよ痼のりすれとてゝ[illegible]くさゝ[illegible]
醫師よりゝ茶と胎とゝ治療ゝ[illegible]
めもつゝなゝ[illegible]よ痼ハ[illegible]胎死
ゝそむゝ[illegible]
死ゝ[illegible]胎と[illegible]

[illegible]ゝ醫書とりんゝ[illegible]ゝよ痼と治ゝ[illegible]
方[illegible]
[illegible]羊角散竹瀝飲なゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

夏月勢合つこされ妊婦ハ腰股足なと腫
て水と出し飲食あまりに虚弱なる婦人八余月
を足腫腰ゝ多く分娩不佳さひとるれとあり
てうちハ業さしてとれとも消とるるりは疱
ゝくハ脾胃虚弱ハ婦人あるひハ酒あるひ瘧疾
或ハ傷食ホハ病よりて脾虚して水湿とそくハ
一胞ふくとれとして分利とることあるこして脾
なんとこつり脾胃を調理ちるとりと腹用ち
てよし
○妊婦ちとる鯽ハいるとるとるして肝経ハ血とこうせ
いるゝに血下るハるあるゝ胎ハいるハ

あざし婦人血有滞して胎を成しても血の滞
りあるまりてとろりとなりて胎の婦人の形体
とやうに健にして飲食徒にして病疾なしかも
毎月の経水のごとく期とそなうして毎月の経水
なくなりて血ヲなりて稼なる婦人も子を産して
二人をあるまりなりもしられども胎内の内に血なる
なるべくはやまひしもしらべく早くおとろさしてよの醫
師のあいべく治療となるべし
○妊娠胎満て胞ふくれよせまれしんぬくい小便通せざる
なり胞の系結庚して小便通せざるなり結胞
胞痛と名付て陳士擇の説にはみえたり妊娠結胞

痛いえ字虚弱のものの憂悶の婦人性さしうきの
あるべしい厚味のものをのべよあるべくいこれあり古方に得
利踈なるのものとりとりとなるべくこれとなるべくこ
との胎字とよ澤もれて胞の系と踈通しべく小
便とのつうう通しるるなりしと丹溪の説にみえたり
付痛はこの外なるもの痛なれてよまれ醫師に
免て早く治療となるべしつさなり
○許学士の説に妊娠ゆへなくこうこうこうこうこう逆矢
とろうのあり色と臓腑と名付大東湯婦人こうこと
用れとるべしいのうこうしこと云て薛己の妊娠と
治とろうよめ月のうてこうこうこうこう逆裏腑とも

まことにとうの婦人のいたくくるしみかるるしるしとなりはう〳〵然笑とうのこと薛己これを清化絳湯と八陰湯とを用ていまるるりは痰いまこ水心とさむるよりあるひは肺風ものあるものこれとうれとこいりて今とこゝもくあるる痰るりとなり醫師よあらく治療はいし

○婦人八九ケ月の内兒腹のうちにて啼哭の声となることゝのあるう亂の實の内の内れを堕とり細末してて鹿射香と入し酒にて服とれしをりところやむとまたこ黄連の濃煎汁と用ることり〳〵婦人良方よりあるえてこう薛己の酒に三錢寶ものいたく腹痛のうちに

疳瘡ここのとり児の第一に含むいまの妊婦そちうこと
ゆのりり辟とのつくゝ和とらわるしい鄭賢と梳
ろうゆうりて児に脱ちと和信元と乳口あるよ声とる
ちとるり妊婦とゝて腰とかゝあ地ゝ新ゝ和とゑ
ろうゝとくゝるゝゝむれゝ脇第一児口ゝ入て声ゆむ
なり黄連八性ゑとゝ麝香八霜ゝとゑゝゝ酷々
て用ゝてこちゝとゝとゑゝり
○妊婦八九ヶ月乃内言語せうゆゝあり茶と脇ちと
ゝゝ仁産月ゝゝ乃ちとんゝく保生仁物湯と用ゝ産
下ちとれとれちら治ゝるゝり素問寄病論ゝ胞衣
絡ゝ腎ゝゆゝゝ内腎乃脇い舌ゝとゝゝぬゝあるい

ゆとあゝ仁十月ゝ分強乃ゝらとのゝゝか
そちうとゝとゝゝ妊婦人良方ゝりせゝり薛ゝ乃
ゝ流ゝ児脇中ゝゆゝゝ妊婦乃清ゝなゝたゝあり理
と麗めゝゆとのゝゝうれいゝあゝゝ騒動ゝて
茶と用ゝても害ゆびゝとゝゝ摂養とゝゝとれ
ゝ茶ゝ仁ゝゝゝて産下ちゝ乃仁ゝゆとのゝゝ手後
ちゝゝとゝとゝり思ゝて妊婦乃病ゝられ脇ゝ脇あり
あゝゆ稜ゝ乃変症ゝありあゝゆ軟ゝ麻ゝ須ゝ瞳ゝ
懸ゝ痼ゝとゝ面ゝゝ乃痛ゝれゝ乃ゝ乃ゝとゝ石付ゝ
ゝりゝ痼乃症ゝとゝとゝゝ仁脇内乃児ゝ驚痼と
うゝとゝゝゝゝゝあゝゝ仁とゝとゝゝ妊婦外ゝゝゆ鶴犯

して胎内の児を驚動して癇となるものもあり愚昧なる人は癇は児の胎内にして驚癇と病とこころえそろそろの薬を安全なるやうといひつゝ児産落されたる母の血脈ひらく行もしるあるよりあらしめてさるべし

十九 胎自潰の説

○妊婦胎をあつうるものは落産血崩するものゝ虚損し胎元とやゝ動るゝことあるこゝろしておはすこれと校るるこゝろは素問の遺篇に附いたもおつるよりそこらふと妊人良方にみえたり農天民の説に妊婦憂恐して情動内決されこゝろ

動けしとみるゝ胎とれこゝろは得風とその素と撮し人を校と打うつとしいつり強く妊婦は遠慮せず おさう人嬢妬の情とものこゝろ そ胎とやはんもるまことこゝろ

○赤水玄珠に妊婦たゝよいまゝしてこゝろの素よりこゝろうつゝしことを思ふこゝろ情慾内の動くるゝまこゝろく有薄胎とるはまりるしいはそこ胎つゝれく産下されるまゝこゝろ濃毒ゝ或は驚る癇のそこゝろ病こゝろれいく毒合力ゝこゝろいこゝろんこゝれて嬉内の部り胎こゝと燥こゝろ なり彼馬牛のそこゝひ

脇ばうくろうから牡牛を遍れてとられてちりこれを嚥
婦して近付てこれしかり蓄積ゆくゆく産門ことを
ゆしく人ちなて怒ゆくして男女交媾門ことみて
つとなりあり面くゆきとれて胎をめくくありうて
とゆしくと我そうれて丈夫ともよりそとて
らんくて家あり付い風房とでて情慾とうこうくく
うくく鳴呼人ゆうと馬牛ゆうとちうくく恥
ばさうゆなり
○産婦ゆ産後ゆ小産といゆ或ハ二ヶ月或
ハ六ヶ月門ゆるゆ妊娠ゆくゆく或ハ悪血悪液巣
ゆりあるゆい骨力衰横内動ゆうり或ハ稽黒醋

きゆ家ゆ胞犯とれうゆくくく小産とゆなり
小産ゆうくくくく犯ゆうくく保養治療ゆ産ゆり
十信ゆとくくとゆうり
○冊漢門ゆ産ハ小産ハゆ内熱くして家四産とゆ
有りあり山二門ゆとゆひゆうして治ゆとくく
巣元方門風冷ゆ臍門ゆとゆ門ゆ胎門ゆるゆと
ゆうくハおやまれゆとゆ痛くゆくくれゆとゆくくひゆ
外風冷門ゆ家ゆあくゆうてゆ臍ゆうくくくく胎とれ
とゆまくくゆくくあゆ妊娠ハ風寒とうけくく外感
とうくくゆ飲食とそゆうくくゆ七情とゆくくて内傷と
きゆうんゆうゆとくくゆ産胎門ゆうゆいあるくくく

○玉石山の猿は妊婦小産血耗散とゆへなり
これを水酒にて未拈出消して本倒るゝたゝるゆへ
んやこ月六月八月陽の屬して火動の時なれと
薩やゝとゝなりこの七ケ月陽数の月なりて動
搖とつゝとゝろなんのことゝ
○明醫雜著に妊婦八勢とゝきのくゝ血室とゆへ
なるゆへとゝ苦らはまこと脇とゆへなるゆへとゝいまつくゝ脾
胃のありそらくゝ搖と梁よりろうとゝ梁
軟なるゝとゝ搖下瀧と梁れゝ搖たらく損
ちろのりとゆえんしらり
○便產須知に妊娠衝任の脉穿虛とれゝその脉と

[illegible]ことなく[illegible]ものなり熱
病あるひは温瘧あるひは傷食幸糖の熱ものよ
られて脳とれとりとことありとこれ
熱病温瘧れ
そこひのやまいは暴熱ものいさりひ脳字と焼おとり
ものなり温瘧熱病の治方あるは脳熱より
茶とれとりあるは小麦となるより
○丹溪の説に妊婦の真字まものいさりされて
湯用ことさり浄化せり精血凝るといえども
[illegible]とものとして或い血脂と産し或い血胞と産
ものあり婦人脳やうやうたりてみとりさ
くうくうして十月にいたりて湯薬の茶とりとひそ

神気と繋がるもの[illegible]とことりとあるる
ものは目のしたりして脳てんて産と産ることりもつ
あるいは白濁とせるものは腎虚のもの病とり
これ妊婦の元字虚虚とるるより精血凝といえども脳
とりとあることりたりて[illegible]
とせるものあるは十月の事動して産とり
[illegible]は[illegible]婦の[illegible]腐となるこれ温熱
溝渠の汚濁ものとりて入りくるれるものとさ
実とそこ同じせるものとりとそこみえんこり
婦人科[illegible]之中之終